

2024年8月1日より

におい認識テスト及び競技会参加条件変更のお知らせ

ノーズワークの公式競技会に参加したい場合

・におい認識テストに合格していること

公式競技会にはJNWSCのルールに従い参加したいクラスのにおい認識テストに合格した全ての犬が参加できます。

・身体・心理的側面において競技会環境で十分対応ができる犬であること

ノーズワークは全ての犬に適したアクティビティではありますが、公式競技会の状況は多種多様であり、全ての犬が好むとは限らない環境です。

跛行、車椅子、歩行に異常が見られる犬について

安全上の理由により、JNWSCのにおい認識テスト及び公式競技会に出場することはできません。

ただし、手術等によってプレートなどが脚に埋められている場合、犬が元気であり、歩行に支障がなければ参加できます。

視覚障がいのある犬について

JNWSCではにおい認識テストの受験及び公式競技会への出場を許可してきました。

しかしながら、におい認識テストや公式競技会のサーチエリア環境は、知らない場所であったり、足場が不安定であったりコンテナが複数置かれていたりするなど、視覚が弱い犬にとっては安全が確保されにくいものです。よって、ピッレ・アンデションさんの助言に基づき、動物福祉の観点から視覚障がいのある犬のにおい認識テストの受験と公式競技会への参加を認めない方針をとることにしました。

オールクラスジャッジ及びノーズワークインストラクターのピッレ・アンデションさんの見解をこちらに記しておきます。また、ピッレさんによる「スウェーデンの犬のウェルフェアとドッグスポーツ」の解説動画をyoutubeにて2024年2月中旬頃より公開予定です。

「スウェーデンケネルクラブのルールでは視覚・聴覚障がいを持つ犬は、におい認識テスト及び公式競技会に参加するのは許可していません。スウェーデンノーズワーククラブはケネルクラブの傘下なのでこのルールに従う必要があります。このルールが存在する第一の目的はハンドラーのエゴが優先されやすい競技会において、障がいを持つ犬のウェルフェアを確保するためです。

盲目の犬では特にサーチエリアは難しいと思います。サーチエリアにはごちゃごちゃといういろいろな物が置かれている場合もあり、足元が見えず安全ではありません。

私が知っている盲目の犬は、慣れ親しんでいる環境ではとても自信を持って振る舞っているのですが、しかし競技会のような新しい環境にいくとやはりかなり辛いようでした。壁から跳ね返ってくる音もいつもと違うし、周りの音質も違う。

あるいは階段があったりと、犬がうまく状況に対処できないようでした。ならば盲目の犬には、競技会としてではなく、アクティビティとしてノーズワークをやらせる、あるいは非公式競技会で時間制限を気にせずサーチをする、というやり方を提供する方が動物ウェルフェアにかなっていると思います。

私のコースにも何頭か盲目の犬が参加します。その犬たちは、たいてい怖がっています。知らないにおいがするし、何をするかわからないからです。そして飼い主がリードをひっぱり、サーチエリアにやってきて「サーチ、サーチ、サーチ」と促すのですが、犬は舌をペロリとだしストレスのシグナルを見せています。そして体全体が低く保たれています。これは明らかに犬が「しんどい」と感じているのが目に見えていますね。

まずは、新しい環境、そして飼い主がサーチをその新しい環境でするよう圧をかけてくる。もし犬に対して思いやりを持つのであれば、そんな犬が競技会に出なくてもすむようにしてあげることなのではないのでしょうか。もちろん、例外もあります。しかしそんな犬は滅多に見ることはありません。一方で聴覚障がいを持った犬はそれほど支障がないでしょう。というのも、ハンドラーとコミュニケーションがうまくとれるからです。」

JNWSCでは、ピッレさんの見解を受けて参加条件を見直し、以下のことを決定しました。

- ・視覚障がいの犬は、におい認識テスト及び公式競技会に参加不可とします。
- ・参加条件の変更は2024年8月1日より採用します。
- ・2024年7月31日までは、視覚障がいの有無にかかわらず、におい認識テスト及び公式競技会に参加可能です。合格や満点獲得した場合には、クラブの合格証書及びディプロマを発行しますが、視覚障がいのある犬の場合、証書やディプロマの有効期限は2024年7月31日までとなり、2024年8月1日以降は証書は無効となります。

におい認識テスト及び公式競技会への出場が不可であることは、障がいがあったりシニアである犬がノーズワークを楽しむことができないという意味ではありません。ノーズワークは障がいのある犬やシニア犬にも有効で有益なスポーツであり、適切なアクティビティもたくさんあります。ノーズワークを多くの皆様に楽しんでいただけるよう、スウェーデンの考え方を学び普及すると同時に、日本の事情を鑑みながら、今後も工夫と検討を続けて参ります。

2024年1月30日

ノーズワークスポーツクラブ